資料３
「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会」
（第8回）H22.3.26

聖路加看護大学大学院　看護学研究科
ウィメンズヘルス・助産学専攻

教育を始めて5年で見えてきたこと

聖路加看護大学　堀内成子

大学院における助産教育　2005年より

- 助産“Midwifery”「女性と共に」、女性との関係においてお互いに力を引き出し高めあうエンパワーメントを基盤に、社会に向けて女性を擁護し、女性の生活に深く根づいた援助行為。

- 看護学の学部教育を修めた者を対象に、高度な助産専門家の育成ならびに、エビデンスに基づく実践技術の開発と検証、実践から生み出される理論の開発に従事できる研究者・実践者・教育者の育成。

ふたつの履修モデル

- ウィメンズヘルスと助産学　各2つの履修コース
- 修士論文コース：専門分野での専門性を高め、研究能力の開発をめざす
- 上級実践コース：看護・助産ケアや管理のスペシャリストとして機能することができるよう、より専門性を深めた実践能力の開発をめざす。
- 助産師国家試験受験資格および受胎調節実地指導員の申請資格を取得。
- 母性看護CNS教育は行なっていない。

看護学専攻

定員15名

基礎系
- 基礎看護学
- 看護技術学
- 看護教育学

臨床系Ⅰ
- 小児看護学
- がん看護学・緩和ケア
- 成人看護学（急性・慢性）
- 老年看護学

臨床系Ⅱ
- 精神看護学
- 国際看護学
- 地域看護学
- 在宅看護学
- 看護管理学

ウィメンズヘルス・助産学専攻

定員15名

- ウィメンズヘルス
- 助 産 学
- 国際協働論
- サービス・マネジメント論
- コミュニティ論

基盤分野

看護学研究法　看護理論　看護倫理
病態生理学　応用形態機能学
看護社会学　看護心理学　看護情報学
応用統計学　特別講義　（フィジカルアセスメント，健康教育）

看護学研究法　看護理論　看護倫理
病態生理学　応用形態機能学
看護社会学　看護心理学　看護情報学
応用統計学　特別講義　（フィジカルアセスメント，健康教育）

入学要件

- 大学卒業資格　（専修学校は認めない）
- 助産学の上級実践コースについては、
  看護師の国家資格が必須で、
  社会人入学は認めない。

- 学習困難な例：准看護師教育から積み上げ
  の場合は論理的思考に難渋

修了要件

- 「修士論文コース」は32単位以上
  実際：35単位から45単位履修

- 「上級実践コース」助産師国家試験の希望
  32単位＋指定科目24単位、計56単位以上
  実際：56単位から58単位履修

5年間の志願者実績:定員15名

助産学	志願者	合格者	（+修論）
2005年	18	15	(12+3)
2006年	31	14	(9+5)
2007年	26	16	(12+4)
2008年※	25	16	(13+3)
2009年	32	21	(16+5)
2010年	35	19	(17+2)

※ここより学内推薦制度スタート

助産学の合格者背景

修士論文コース:

助産師の臨床経験3年から10年

助産教育経験者

上級実践コース:

大学卒業後ストレート・・・　毎年8－10人

学士編入（職業経験あり）・・・毎年2－3人

看護師経験3年から5年（外科・小児科・婦人科）・・・毎年2－3人

5年間の修了者実績:定員15名

助産学	修了者	入学者
2005年		15
2006年	12	14
2007年	14	16
2008年※	15	16
2009年	16	

- 修論コースは大学教員、上級実践は実践者として
- 休学・留年・退学　　5名

教育目標1

１．リプロダクティブ･ヘルスの概念に基づき、女性の生涯にわたる健康問題のアセスメント、健康な女性がその健康を維持･増進するためのセルフケアの獲得と遂行の支援、常に対象となる女性を中心においたケア（Women-centered Care）を行う能力を養う。

＜尊重＞＜安全＞
＜ホリスティック＞＜エンパワー＞

- ウィメンズヘルス　特論Ⅰ･特論Ⅱ
- ウィメンズヘルス　演習Ⅰ･演習Ⅱ

教育目標2

２．妊娠から分娩・産褥・新生児期における安全と快適さ、母となる女性が自分に本来備わっている自然なメカニズムを生かし、よき経験として人生に統合でき、かつ、家族全体が健康で喜びをもって新しい命の誕生を迎えられるような助産を行う能力を養う。

- 助産学　特論Ⅲ・特論Ⅳ・特論Ⅴ
- 助産学　演習Ⅲ・演習Ⅳ・演習Ⅴ

教育目標3（独自の方法論）

３．女性の健康や助産に関する研究を推進し、研究で得られたエビデンスを活用した臨床実践（Evidence-based Practice）を行う能力を養う。

- 助産学　特論Ⅰ・特論Ⅱ
- 助産学　演習Ⅰ・演習Ⅱ

教育目標4

４．助産業務管理におけるリーダーシップ、女性および母子の保健医療福祉チーム間のコーディネート、また、政策決定への参加に必要な能力を養う。

- サービスマネジメント論　特論・演習
- 看護管理学　特論・演習

教育目標5

５．リプロダクティブ・ヘルス/ライツをめぐる倫理的問題を理解し、その判断および解決に対し、理論に基づいた科学的なアプローチを用いることができる能力を養う。

- 看護学研究法
- 看護理論
- 看護倫理

教育目標6

６．国際的な視野あるいは国際的な活動の基盤を国内外に築いて助産活動を展開する能力を養う。

- 国際協働論　特論・演習
- 国際看護学　特論・演習

教育目標7

７．助産師や保健医療福祉チームの関連職種に対し、必要な教育を行う能力を養う。

- コミュニティ論　特論・演習
- 地域看護学　特論・演習
- 看護教育学　特論・演習

教育目標8

８．女性および母子の保健医療福祉における他領域との学際的な専門職種間の連携をはかりながら、地域を基盤に、自律して助産実践活動を行える能力を養う。

- コミュニティ論　特論・演習
- 地域看護学　特論・演習
- サービスマネジメント論　特論・演習

獲得する能力

1. 正常妊産婦の診断・ケア能力
2. EBMを基盤にした実践変革力
3. 職業人としての品位と強靭性
4. 自立して実践開業する基礎力
5. 国際協働に向けての柔軟性と適応力
6. ハイリスク妊産婦へのケア能力

プログラムの概要

			前期						後期			
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
基盤分野	看護学研究法 看護理論 応用統計学 看護心理学・看護社会学（隔週） 応用形態機能学						看護学研究法 看護理論 看護心理学・看護社会学（隔週） 応用形態機能学 病態生理学			看護心理学演習 看護社会学演習		
専門分野：助産学	助産学特論Ⅰ 助産学特論Ⅲ 助産学特論Ⅳ 国際協働論特論			フィジカルアセスメント 演習Ⅲ		演習Ⅲ	助産学特論Ⅱ 助産学特論Ⅲ・助産学特論Ⅳ 助産学特論Ⅴ コミュニティ論特論 国際協働論特論			助産学演習Ⅳ 助産学演習Ⅴ		
実習												
課題研究												課題研究

			前期						後期			
	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
基盤分野	看護心理学演習 看護社会学演習											
専門分野：助産学	サービスマネジメント論特論 助産学演習Ⅰ 助産学演習Ⅱ コミュニティ論演習 サービスマネジメント論演習			国際協働論演習								
実習				上級実践実習								
課題研究	課題研究											

教育内容と方法（理論期）

- ✓理論期Ⅰ；１年次（４～６月）
  基本知識の習得（正常の事例の展開）
- ✓理論期Ⅱ；１年次（10～12月）
  ハイリスク、 EBM
- ✓理論期Ⅲ；１・２年次（３～翌１月）
  課題研究

教育内容と方法（演習・実習期）

- ✓実習期Ⅰ；１年次（７月：３週間）
  産褥期の母子のケア
- ✓実習期Ⅱ； １年次（1～3月、９週間）
  正期産の分娩介助およびケア
- ✓実習期Ⅲ；２年次（４～６月：５週間）
  継続事例、分娩介助、妊婦健診
- ✓実習期Ⅳ； ２年次（７～１０月：８週間）
  正期産の分娩介助およびケア

教育方法の特徴

- 理論期：講義・自己学習ワークブックの活用.
- 事例の展開：自分で調べ、分析し、グループワークで組み立てて記述・発表する.
- EBMのトレーニング：シナリオ事例から、系統的情報検索、研究論文の批判的吟味、実践への適用を視野に入れ、チュートリアルによる小グループ学習（海外文献）.
- 実習：基本的に24時間オンコール体制

  助産所でのひとり実習

実習実績（連続した2年間）

		平均	min−max
Ⅰ期（分娩ー病院）	Ⅰ期（母体）：Ⅰ期ケア	2	1－2
ホップ	沐浴指導	6	1-12
Ⅱ期（分娩ー病院）	Ⅰ期（母体）：Ⅰ期ケア	15	8－22
	分娩の直接介助	10	8－11
ステップ	間接ケア（外回り）	4	2－8
Ⅲ期（分娩ー助産所）	妊婦健診・計測	23	5－40
	Ⅰ期（母体）：Ⅰ期ケア	5	1－8
	分娩の直接介助	3	1－5
	間接ケア（外回り）	4	1－8
ジャンプ	沐浴指導	2	1－11
Ⅳ期（分娩ー助産所・病院）	妊婦健診・計測	22	1－55
	Ⅰ期（母体）：Ⅰ期ケア	6	2－11
	分娩の直接介助	6	2－7
	間接ケア（外回り）	4	1－6
アドバンス	沐浴指導	4	1－8

実習実績まとめ(2年間)

妊婦健診	平均26例
分娩第Ⅰ期	平均28例
分娩直接介助	平均18例
分娩間接介助	平均12例
沐浴指導	平均8例

課題研究(例)

- 記述研究

正常分娩における人工破膜の適用とその後の転帰

妊婦受け入れ基準インデックスの適応と評価

周産期における児童虐待の早期発見に向けたケンプ・アセスメントの実用可能性

Providing Perinatal Care for a Foreign Women who Has Experienced DV during Pregnancy

- プログラム開発と評価

助産師に対するBreast Awareness 普及に向けた教育プログラムの開発と評価

腰痛を持つ妊婦に対するエビデンスに基づいたケアの検討

修了後に学術雑誌への公表

教育で大切にしていること

- 専任教員は、5人（大学院重点）+3名（学部重点）
- TA（博士後期課程）や臨時助教、臨床教員（スタッフ）による小人数受持制の指導.

- 学生ひとりひとりに細やかに関わることによって、助産プロフェッショナルとしての品位、素養、知識、技術を備え、思考する力、主体的に実行する力、協調して活動するチームスピリットを育てたい.

- 知識は変わる → 柔軟性、批判的文献活用
- Women-centered Care女性中心のケア、対象にコミットする。

学部卒業生より大学院修了生に特徴的なこと(上司より)

就職3年未満の実践能力評価
　ー大学院修士課程と大学課程の比較ー2009

- ＜旺盛な探究心＞
- ＜助産という仕事への専心＞
- ＜調整し焦点化する力＞
- ＜職業人としての人間関係スキル＞